



自然遊学館 だより



2007 AUTUMN

No. 45



■2007.10.15 発行 貝塚市立自然遊学館

■行事レポート

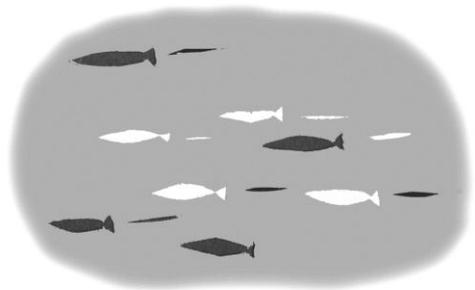
- 大潮の夜の海探検 No. 2..... 1
- ツバメの塹（ねぐら）観察会..... 2
- 生態園作業とバッタ調べ..... 2
- 自然生態園のバッタと鳴く虫..... 3
- 河口のカニ釣り生きもの調べ..... 5

■生きものよみもの

- カマキリタマゴカツオブシムシ
の生活史 4 7
- 【泉州生きもの歳時記】
- 鳥によって運ばれる外来植物..... 9
- 二色浜にベニクダウミヒドラ
が漂流 10

■館長コーナー

- 秋3. なんのことやら、
愚痴ではありませんか..... 11
- 寄贈標本の紹介..... 12
- 学芸員実習を終えて..... 15
- 遊学館スタッフ日誌..... 17
- おしらせ..... 17



表紙の魚のイラストは二色小学校4年生（当時）田中貴大さんが2007年3月に作成した切り絵作品を基にしています。



■行事レポート

大潮の夜の海探検 No. 2

場所：二色の浜海岸・近木川河口

日時：2007年8月12日（日）16:00～20:30

参加者 81名

抽選で選ばれた参加者 20 家族 56 人、スタッフと 26 人のボランティアの活躍で無事に終わりましたが……。

前日の夕方、8 個のカニかごにサバの頭を入れて、二色の浜の海に沈めておいたのに 4 個が行方不明、もちろん錘も浮きも調査中の札も付けていたのです。気を取り直し、太陽が沈む前の砂浜で、班ごとに投網を打つ練習をしました。

最初に投網を打った班は、熟練者も初心者もそこそこ収穫がありました。ボラ・メナダ・クサフグ・スズキ・キチヌなどですが、収穫ゼロに近い班が多く、今までにない不漁でした。夕食後、残っている 4 個のカニかごを引き上げましたが、小さなイシガニとクサフグがそれぞれ 1 匹ほど、これまた過去最低記録でした。

突堤の灯火採集では、ケンミジンコ類やウリクラゲ・オワンクラゲがプランクトンネットに入りましたが、生きものの種類は少なくガッカリしていましたが、数人の男の子が透明容器を誇らしげに掲げ「見て！クラゲとミジンコがこんなにいっぱい」と元気に駆け寄ってきて、少し元気回復です。この行事、今年で 6 回目ですが、年々獲物が少なくなっている気がします。

5 年前、突堤の灯火が照らす海面には、ピンク色で 15 mm ほどのケムシみたいな生物が

狂ったように泳ぎまわり、クサフグがそれを追っていました。講師の鍋島靖信さん（大阪府環境農林水産研究所）のお話によると、普段は海底の泥の中にいるゴカイの繁殖行動だそうです。大潮の時、身体の後半分に卵がつまり、その卵を産みに水面に上がってきて泳ぎまわる（生殖群泳）、漁師さんの言う「バチが抜けた」という光景で、まさに大潮の夜の、音のない饗宴でした。今年、そのアシナガゴカイと同じであろうゴカイは、1 匹だけ採集されました。



アシナガゴカイのバチ抜けした個体（体前部）

● 2007年8月12日「大潮の夜の海探検」で観察された動物リスト

和名	採集法			
	投網	かご網	灯火	その他
有櫛動物 ウリクラゲ			○	
刺胞動物 オワンクラゲ			○	
環形動物 アシナガゴカイ			○	
甲殻類 アカテガニ				○
イシガニ		○		
ユビナガホンヤドカリ		○		○
ケンミジンコの仲間			○	
ヒメハマトビムシ				○
魚 マハゼ	○			
ヒメハゼ	○			
ボラ	○			
メナダ	○			
スズキ	○			
キチヌ	○			
シロギス	○			
クサフグ	○	○		

（白木 江都子）

ツバメの埒（ねぐら）観察会

場所：貝塚市麻生中

日時：2007年8月18日（日）18:00～20:00

参加者 29名

昨年8月末、貝塚市麻生中でツバメの埒が見つかりました。自然遊学館わくわくクラブの石井葉子さんが、毎夕根気よくツバメを追跡して、突き止められたものです。

平成16年に大阪市立自然史博物館の和田岳学芸員の案内で、京都府宇治向島のツバメの集団埒（ねぐら）を見ましたが、その時の感動を思いおこし、来年はそれを貝塚で味わえるのだと思うと、期待に胸がふくらみました。

今年8月18日、京都に案内して下さった和田岳学芸員に来ていただいて観察会をしました。貝塚で見つかった埒は、池の岸に沿った細長いヨシ原で、そこから50mぐらい離れた田んぼの畦道から観察するのがいいと、石井葉子さんが教えてくれました。

ツバメを待つ間、和田学芸員から埒の話をお聞きし、6時45分頃コウモリが飛び始めるとツバメが混じり始め、7時前になるとあらゆる方向から群れをなして飛んできました。ついには上空を埋め尽くすかと思える数になり、和田さん推定5,000羽が空中ショーの開始、7時頃からツバメの集団は、ヨシ原に向かい始めました。ヨシすれすれに右方向の集団、左方向の集団とビュンビュン飛び交っています。まるでバッタの大群が飛び交っているようです。太陽が沈むと、どんどんヨシ原の中に入ってゆき、やがて静かになりました。



埒に集まるツバメはそれぞれ鳴いているのですが、そんなにうるさくはありません。しかも夏が終わるまでにフィリピンやマレーシアに飛び立って行くので、カラスやサギのように追い払われることなく、街中に埒が存在し続けているのでしょうか。この壮大なドラマを世間に広め、池が埋め立てられないようアピールしたいと思うのですが、大勢の人々が訪れると田畑や住民に迷惑がかかるだろうなどと思うと、年に一度の観察会ぐらいが適当かもしれません。

（白木 江都子）

生態園作業とバッタ調べ

場所：貝塚市二色市民の森

日時：2007年9月8日（土）14:00～17:30

参加者 26名（作業・バッタ調べ）

生態園作業では暑い中、汗をかきながら1時間程草ぬきを行いました。話すことも忘れ、黙々と草ぬきをしました。こんなに一つの事に集中して、汗を流したのは久しぶりです。

バッタ調べでは、自然生態園内のバッタの原っぱに何種類のバッタやコオロギが何匹いるかを調査しました。まずは30分間バッタやコオロギの採集を行い、子供も大人も必死にバッタを追いかけていました。

子供たちの中には、カメラを撮っていた私に「こんな小さなバッタとったよ。」と我慢げに見せてくれた子や「ここにバッタいるよ。」と教えるとそのバッタを必死に追いかける子、バッタをとったら「バッタとった！」と喜ぶ子を見て、やはり子供は純粋で素直で愛らしいと思いました。



なにがいるのかな

その後のバッタの種類を調べているときに虫かごからバッタが逃げってしまった時、思わず必死にその逃げたバッタを追いかけてきました。日常生活ではこれをしたらもしかして恥ずかしい思いをするのではないかという不安をもつため、すぐに行動に移せないものです。でも、この時は、子供たちが必死にバッタをとっていた姿を見ていたからか、何も考えずに自然と体が動いていました。少し違う自分に出会えたような気がします。

(近畿大学農学部3回生 久保田 梨裕)

自然生態園のバッタと鳴く虫

場所：貝塚市二色市民の森

日時：2007年9月8日(土) 16:00～21:00

参加者 22名(鳴く虫)

毎月の第2土曜日に行っている自然生態園作業日に合わせて、バッタ調べと鳴く虫の声を聞く行事を行いました。講師はおなじみの河合正人先生です。

バッタ調べは午後4時から30分間、15名がバッタの原っぱで採集し、バッタ目12種58匹を確認しました(次頁の表を見て下さい)。ちなみに昨年は、12名で11種51匹を採集しています。

日が暮れてからは、鳴く虫の声を聞く行事です。アオマツムシ、カネタタキ、ヒロバネカンタン、エンマコオロギなど、分かりやすい声はいいのですが、そこに他のコオロギの声が増えると、とたんに頭が混乱してしまいます。

鳴く虫以外での最大のヒットは、渡辺怜真さんが見つけてくれたショウリョウバッタモドキで、市民の森での初記録です。市民の森は1990年に埋立が完成した造成地につくられ、バッタ目では25種目の確認となりました。

ショウリョウバッタモドキは、「安定して存在する^{くきち}草地(湿った場所があればなお良い)」に生息する種で、貝塚市内ではこれまでに、千石荘と馬場で記録があります。河合先生の話をもとめると、「飛ぶ力が強く、たま飛んできたのかもしれないが、トンボの池の水辺もあり、気に入ってくれた可能性もあるので、今後注目」ということになります。

これに次ぐヒットは、樹上にすむサトクダマキモドキで、これは1998年以来の確認となりました。オスとメスが採集されたことから、定着している可能性もあります。

また、先の25種には含めていませんが、ヤブキリも、姿は見えていないものの、昨年と今年の夏に鳴き声が聞こえ、定着したようです。

これからの楽しみがいっぱいの市民の森ですが、河合先生が残念がっていたことは、芝生が以前より短くなっていたことで、そのせいか、シバズやマダラスズといった小型のコオロギの鳴き声がほとんど聞こえませんでした。

■ 自然生態園バッタの原っぱのバッタ調べ
2007年9月8日 16:07~16:37 15名
同定:河合正人

科	種	成虫	幼虫
キリギリス科	クビキリギリス	1	14
	ホシササキリ	10	2
ツユムシ科	ツユムシ		1
コオロギ科	エンマコオロギ	3	
	ハラオカメコオロギ	1	
	オカメコオロギsp.	10	
ヒバリモドキ科	シバズ	1	2
	マダラスズ	1	1
マツムシ科	カンタンsp.		1
オンブバッタ科	オンブバッタ	2	
バッタ科	シヨウリヨウバッタ	3	
	イボバッタ	1	
	マダラバッタ	2	2

■ 市民の森の鳴く虫

2007年9月8日 19:15~20:30 22名
同定:河合正人

バッタ目

科	種	成虫	鳴き声
キリギリス科	ホシササキリ	○	
ツユムシ科	ツユムシ	○	
コオロギ科	サトクダマキモドキ	○	
	エンマコオロギ	○	○
	ハラオカメコオロギ	○	○
	ミツカドコオロギ	○	○
ヒバリモドキ科	ツツレサセコオロギ	○	○
	シバズ	○	
マツムシ科	マダラスズ	○	
	アオマツムシ	○	○
カネタタキ科	ヒロバネカンタン	○	○
	カネタタキ	○	○
オンブバッタ科	オンブバッタ	○	
バッタ科	シヨウリヨウバッタモドキ	○	

シヨウリヨウバッタモドキ(1♀)は、市民の森で初記録
サトクダマキモドキは、1♂1♀(♂のみ標本)

カマキリ目

科	種	成虫
カマキリ科	ハラヒロカマキリ	○

ハラヒロカマキリ(2♂)は、飼育展示

この表にあるツユムシ科やヒバリモドキ科は、聞きなれない科名かもしれません。河合先生も編集にたずさわられた「バッタ・コオロギ・キリギリス大図鑑」(北海道大学出版会、2006年発刊)で、それぞれキリギリス科とコオロギ科から細分されたものです。当日、お配りしたテキストでは、サトクダマキモドキがキリギリス科になっていましたが、(ツユムシをツユムシ科とした以上)、サトクダマキモドキもツユムシ科とすべきでした。申し訳ありません。

(岩崎 拓)

河口のカニ釣りと生きもの調べ

場所：近木川河口

日時：2007年9月9日（日）10:00～15:00

参加者 53人

行事に先立ち、9月5日、カニ釣りをを行う場所のゴミ拾いと護岸に生えていて邪魔になる草木刈りを行いました。学芸員実習の近大生2名と職場体験の貝塚市立第四中学校の生徒4名にも手伝ってもらったので、作業はずいぶんとはかどりました。

そして行事当日、参加者は館に集合した後、近木川河口のヨシ原へ歩いて出発です。カニ釣りの仕方を説明した後、40分間のカニ釣り大会を行いました。

釣られたカニは全て、スタッフが種類と雌雄、そして甲羅の横幅を計測しました。結果は昨年同様、一番たくさん釣れたのはハマガニで70匹、次にクロベンケイで23匹、アシハラガニ1匹の順でした。大きさでみると、ハマガニで一番の大物は甲幅44.1mmのみで、平均は27.2mmでした。クロベンケイガニの一番の大物は甲幅35.0mmのみで、平均25.2mmでした。アシハラガニは甲幅23.4mmのみでした。



近木川の護岸からカニを釣る

その後、お弁当を海辺の湾岸線高架下で食べてから、海に面して広がる干潟で生きもの探しを行いました。貝に詳しい児嶋格先生も駆けつけて頂き、参加者の方たちに貝の隠れている場所をアドバイスしてもらいながら採集を行いました。1時間半ほど各々、生きものを採集した後、皆さんが見つけた生きものを前に種名等の解説を行いました。

例年に比べ、多くのトゲアメフラシが見つかりました。また、一昨年から近木川の河口で見つかりはじめたコブヨコバサミもすっかり定着しているようで、お馴染みとなったヤドカリです。そして今回、ヤマトシジミ2個体（1生貝、1死殻）とマツカゼガイ2個体（生貝）が採集され、近木川河口で初記録の貝となりました。その他、観察された生きものについて以下の表にまとめています。

採集された種類を記録して頂いたボランティアスタッフの鈴木佐幸さんにお礼申し上げます。



干潟（近木川左岸側）で生きものを探す

近木川河口の生きもの観察会 20070909

		和名	
刺胞動物門	花虫綱	イソギンチャク目	タテジマイソギンチャク
軟体動物門	多板綱	ケハダヒザラガイ科	ヒメケハダヒザラガイ
	腹足綱	ヨメガカサガイ科	ヨメガカサ
		ユキノカサガイ科	クモリアオガイ
			ユウダカアオガイ
		ニシキウスガイ科	イシダタミガイ
			コシダカガンガラ D
		アマガサネ科	イシマキガイ
		タマキビガイ科	タマキビ
			アラレタマキビ
			マルウスラタマキビ
			コヒトウウスガイ
		カリバガサガイ科	シマモノウフネガイ
		タマガイ科	ツメタガイ D
			ハナツメタガイ D
		アツキガイ科	イボニシ
			カコメガイ D
			アカニシ D
		フトコロガイ科	ムギガイ D
		ムシロガイ科	アラムシロガイ
(後鰓亜綱)	アマフラン科		トゲアメフラン
(有肺亜綱)	カラマツガイ科		カラマツガイ
二枚貝綱	フネガイ科		カリガネエガイ
			サルボウガイ D
		イガイ科	ムラサキイガイ
			ホトギスガイ
			クログチ
		オミマガシワ科	オミマガシワ D
		イタボガキ科	マガキ
			ケガキ
		シジミ科	ヤマトシジミ
		バカガイ科	バカガイ D
		チドリマスオガイ科	クチバガイ D
		マルスタレガイ科	オニアサリ D
			カガミガイ
			アサリ
			ウチムラサキ D
			マツカゼガイ
環形動物門	多毛綱	オナテイソメ科	スコカイイソメの巢
棘皮動物門	ヒトデ綱	イトマキヒトデ科	イトマキヒトデ
節足動物門	顎脚綱	まん脚脚綱	タテジマフジツボ
			カモノテ
	軟甲綱	ホンヤドカリ科	ユビナガホンヤドカリ
		ヤドカリ科	ユボヨコバサミ
		ガザ科	ガザミ
		イワガニ科	ケフサイノガニ
		スナガニ科	ヤマトオサガニ
脊椎動物門	硬骨魚綱	ハゼ科	ミズハゼ
			マハゼ
			ヒメハゼ
			ドロメ
		ボラ科	ボラ
		フグ科	クサフグ
		シマイサキ科	シマイサキ

凡例 D: 打ち上げの死骸のみ

(山田 浩二)

【感想】

午前中は近木川下流でカニ釣り、午後からは干潟で生きもの調べをしました。私は、初めてカニ釣りをしました。タクワンがエサでびっくりしました。準備が整い、カニ釣りが始まるとみんな必死になっていました。カニがよく釣れそうな場所を探すため端から端までみんな移動していました。

私もタクワンとタコ糸をもらい、カニ釣りをしました。エサに全然反応してくれないカニが多くて、なかなかカニを釣ることができませんでした。ふと、周りにいた子どもたちのバケツの中を覗いてみると、たくさんカニが入っていたのでみんなすごいなあと思いました。やっぱりコツがあるのかなあと思いました。

その後、私も場所を移動し、やっとエサに反応してくれるカニに出会い、ようやく一匹釣ることができ、終了の時間になりました。一匹でも釣れて良かったです。

午後は干潟で生きもの調べをしました。石をひっくりかえしてカニやヤドカリを取ったり、砂を掘って貝を見つけたり、子供たちは水の中に入って魚を捕まえたりしていました。終了時間になり、みんなが採取したのを見てみると、たくさんの種類の貝やカニなどの生きものがバケツに入っていました。子どもたちは採取したものに興味津々でした。やっぱり生きものと触れ合うことは、いいことだなあと思いました。

(近畿大学農学部 4 回生 西岡 絵理)

■生きものよみもの

カマキリタマゴカツオブシムシ の生活史 4

前号までに、本種の越冬世代成虫が春にカマキリのふ化後卵囊に産卵し、生まれた第1世代幼虫が夏にふ化後卵囊を摂食して発育し、秋に羽化することを紹介しました(図5)。

第1世代の秋の羽化パターンは、卵の詰まった卵囊を摂食し春に羽化する越冬世代とは違うのでしょうか。

1993年と1994年に行った飼育における各卵囊からの脱出個体数を表4に示しました。平均(±標準偏差)はそれぞれ、オオカマキリのふ化後卵囊からが 6.9 ± 3.8 (卵囊数=35)、チョウセンカマキリ卵囊からが 6.4 ± 4.7 (卵囊数=30) でした。

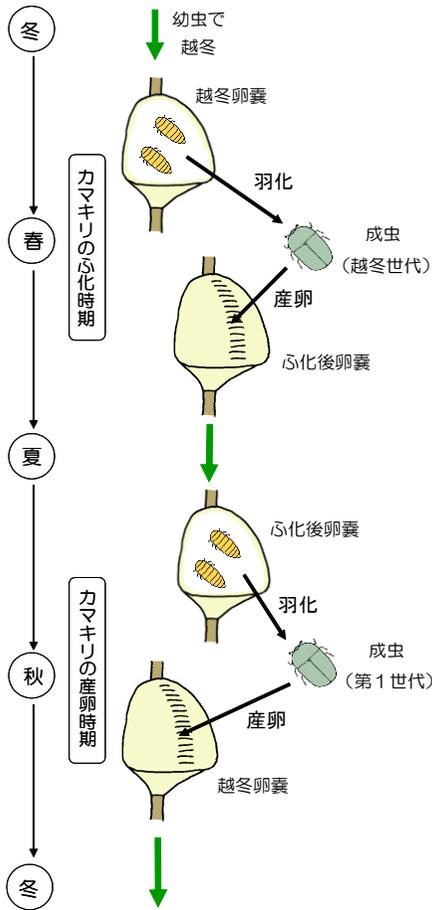


図5. カマキリタマゴカツオブシムシの生活史

表4. カマキリのふ化後卵囊から脱出したカマキリタマゴカツオブシムシ成虫の雌雄別個体数

クロヒゲトカツオブシムシか、カマキリカツオアリガタバチが脱出した卵囊は省略

オオカマキリのふ化後卵囊

調査地	♂	♀	合計
緑ヶ丘 1993	3	2	5
豊田北 1993	5	5	10
豊田北 1994	5	2	7
	1	4	5
	6	5	11
	0	8	8
	7	1	8
	2	0	2
	2	2	4
浦田南 1993	2	5	7
	5	5	10
東山 1993	2	3	5
	1	1	2
	4	2	6
	7	4	11
	2	4	6
	4	4	8
緑ヶ丘 1994	10	6	16
	5	5	10
	0	2	2
	5	5	10
	0	3	3
豊田北 1994	1	2	3
	0	1	1
	3	3	6
	4	0	4
	2	3	5
城前橋 1994	7	3	10
	4	10	14
	6	6	12
	4	2	6
	2	1	3
	8	5	13
	3	2	5
	2	0	2
合計	124	116	240

チョウセンカマキリのふ化後卵囊

調査地	♂	♀	合計
緑ヶ丘 1993	1	1	2
	6	6	12
	2	3	5
東山 1993	1	1	2
	11	0	11
	8	8	16
	8	12	20
	1	4	5
	2	3	5
	4	1	5
豊田北 1994	0	5	5
	3	1	4
	3	3	6
	1	0	1
	0	3	3
	2	3	5
	1	0	1
城前橋 1994	7	7	14
	5	3	8
	4	2	6
	0	1	1
	4	0	4
	1	0	1
浦田 1994	4	2	6
	1	2	3
	5	7	12
	7	2	9
	2	3	5
	7	3	10
	3	2	5
合計	104	88	192

オオカマキリのふ化後卵囊

調査地	♂	♀	合計
馬場 1998	7	3	10
	2	3	5
	7	8	15
	3	7	10
	1	0	1
	2	2	4
千石荘 1998	0	2	2
	3	1	4
	7	3	10
	6	4	10
	5	9	14
	4	5	9
	2	0	2
	3	2	5
	1	1	2
	6	6	12
合計	59	56	115

いずれも 30 個体ほどだった越冬世代の脱出個体数と比べるとかなり少ない個体数で、卵の詰まっていないふ化後卵囊は、カツオブシムシの幼虫にとって、あまり良い餌ではないのかもしれませんが (Iwasaki et al., 1996)。また、1998 年に貝塚市の馬場と千石荘で採集したオオカマキリのふ化後卵囊でも、 7.2 ± 4.6 (卵囊数=16) と、同様の結果が得られています (表 4)。

図 6 には、越冬世代と第 1 世代の成虫の脱出パターンを示しました。両種の卵囊からとも、雄成虫の脱出の方が早いのは、両世代で共通でした。しかし第 1 世代では、越冬世代とは異なり、雌雄とも、両種のカマキリ卵囊からの脱出時期に有意な差は見られませんでした (t 検定による)。

さらに、卵囊の種類別、カツオブシムシの雌雄別の 4 組の脱出パターンを越冬世代と第 1 世代で比較すると、いずれの場合でも、第 1 世代の脱出のばらつき (標準偏差) の方が大きいという結果が得られました (F 検定による : 図 6)。

カマキリのふ化後卵囊にはカマキリの生きた卵がなく、卵囊殻を摂食して発育する第 1 世代の幼虫は、カマキリの卵の発育に合わせる必要がないため、脱出時期がばらつくのかもしれませんが (Iwasaki et al., 1996)。

以上の結果を簡単にまとめると、越冬世代に比べて、第 1 世代の卵囊当りの脱出個体数は少なく、脱出の時期がばらつく、ということになります。

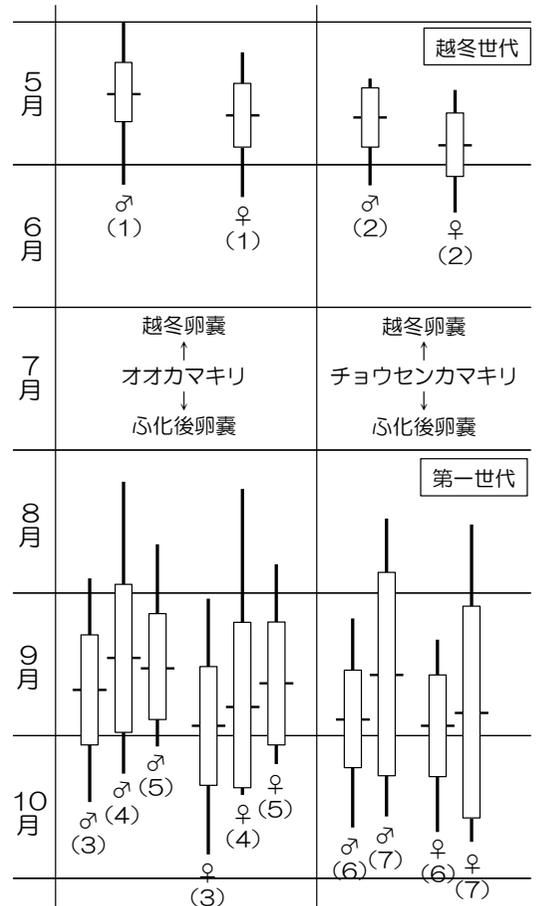


図 6. カマキリタマゴカツオブシムシの越冬世代と第一世代の雌雄別の脱出時期

縦線が脱出期間、横線が平均日、方形が標準偏差を示しています。(1) 堺市・和泉市 1991 年 (2) 堺市 1991 年 (3, 6) 堺市・和泉市 1993 年 (4, 7) 堺市、和泉市 1994 年 (5) 貝塚市 1998 年

引用文献

Iwasaki, T., M. Aoyagi, Y. Dodo & M. Ishii (1996) Applied Entomology and Zoology 31 : 389-395.

(岩崎 拓・青柳 正人)

【泉州生きもの歳時記】

鳥によって運ばれる外来植物

実りの秋です。皆さんの周りでも果実が色づくのが見られるのではないのでしょうか。様々な植物の果実を鳥が食べます。鳥は移動能力が高いため、種子が運ばれ糞によって種子が広がっていきます。これを種子散布といいます。植物は鳥によって遠くに種子を運んでもらうことができます。種子散布は森林の更新にも役立っています。

一方で、外来生物（移入種）が日本の在来の生態系を侵し、問題になっています。外来生物というのは、外国から持ち込まれた生き物のことをいいます。農作物のように有用な植物もありますが、問題になっているのは侵略的外来種という日本にある本来の植生や動物などの生活をおびやかす種です。このような動物の中にはアライグマのように寄生虫を媒介するものもあります。捕獲などの排除が必要です。

「世界の侵略的外来種ワースト100」の中にランタナという植物が挙げられています。この植物は園芸種として庭などに植えられています。花の色が変わることから七変化とも呼ばれています。秋になると黒い実をつけます。東南アジアでは有害な雑草となっています。この果実は鳥が散布することが知られています。

また、兵庫県三田市内のニュータウンにある残存林にトウネズミモチ、ヒイラギナンテン、セイヨウイボタ、タチバナモドキの侵入が確認されています。



ランタナの花（上）、果実（下）

どのような鳥がどんな果実を食べているのかという記録が日本の在来の植生を守るために役立ってきます。皆さんの家の周りでも鳥が果実を食べていたら、日付と時間、鳥の種類、植物の種類を教えてください。ぜひ、校庭や公園、庭などで観察してみてください。

参考文献

中井克樹他(2003)外来生物一つれてこられた生き物たち一. 161pp. 滋賀県立琵琶湖博物館.

日本生態学会(編)(2002)外来種ハンドブック. 390pp. 地人書館.

(宮本 久美子)

二色浜にベニクダウミヒドラが漂流

2007年6月4日、近木川河口の突堤の二色浜側で、海水面を漂うベニクダウミヒドラ（刺胞動物門）の生きた群体を採集しましたので報告します。

うす紅色の紐の絡まったまとまりのような、手のこぶし位の大きさのものがぷかぷかと浮いているのを偶然目にし、採集してみたところ、紐のような先端はまるで花が開いたようになっています。これはヒドロ虫特有の器官で、ヒドロ花と呼ばれるものです。紐のように見えたものは、1本1本がポリプと呼ばれ、刺胞動物の基本的な体の構造のひとつです。私にとっては初めて見る種類のヒドロ虫でしたので、館に持ち帰り、図鑑で調べるとベニクダウミヒドラという種ではないかと推測しました。

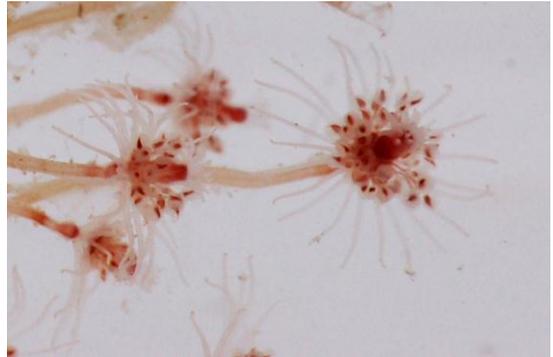


ベニクダウミヒドラの群体

そして、はっきりと種名を同定させるために、ヒドロ虫類の研究がご専門の京都大学瀬戸臨海実験所の久保田信先生にこの標本を精査して頂いたところ、晴れてベニクダウミヒドラのメスの群体であることが判明しました。貝塚市の海岸では初記録とな

る種です。

本来、ベニクダウミヒドラは海草上や魚網に着生しています。定置網漁業を営む漁師にとっては、網に着く付着生物として知られ、漁獲に悪影響を及ぼすことから厄介者となっています。また、夏場における本種の生存期間は約1ヶ月程であり（山本, 1996）、死んだものは剥がれて脱落していくようですが、今回の漂流していた個体はまだ生きていました。どこからどういった状況で剥がれて、流れてきたのでしょうか？



ベニクダウミヒドラのヒドロ花

ベニクダウミヒドラ

学名 *Tubularia mesembryanthemum* Allman

刺胞動物門ヒドロ虫綱花クラゲ目クダウミヒドラ科

引用文献

山本章太郎(1996) 相模湾の定置網における付着生物ベニクダウミヒドラの成長について．神水研研報第1号：59-62.

(山田 浩二)

■館長コーナー

秋3. なんのことやら、 愚痴ではありませんか

私は和歌山の山間部が大好きでよく行きます。そして、その帰路には必ず通るといっていいほどの要所があります。それは吉備インターチェンジです。美里や生石山・清水、高野山から龍神、熊野古道で有名な中辺路、時には串本や新宮などからの帰路でもそこを通ります。インターチェンジの近くに有田の金屋という所に、「どんどん広場」という小さなマーケットがあります。そこへは時間のあるときは良く立ち寄るのです。

つい先日（10月2日）伯母子岳登山を思い立ち実効しました。行く直前インターネットで調べてみますと、軽トラックなら歩くのは15分くらいのところまで車でいけるとの情報です。しかし、きちんと調べていなかったで山中を様々に迷走し、時には生命の危険を感じるまでの窮地に追い込まれました。よせばよいのに、目的を達成できないフラストレーションはそんな危機に何度も挑戦するのです。挙句の果ては「伯母子岳」は後日ということで終了しました。その終了宣言する理由は、今年も又見事に風に舞うススキオバナを一杯見ることが出来たことでした。

さらにもうひとつ、お尻の辺りが（その部分しか見えなかったのですが）黒い動物と出くわしたことでした。シカかカモシカかわからなかったけれどかなりの大物でした。車から降りて足跡を見ましたが、私の

力量ではシカかカモシカかを区別することは出来ません。しかし、もし、カモシカとすればめったに自然のものと遭うことはありません。これはカモシカにちがいない、とあって決断したのでした。

さて、高野龍神スカイラインの箕峠まで戻ったものの、どう帰るかです。高野山まで引き返し、そのまま泉南まで帰るのが一番楽です。次に清水へ抜け、生石山から岩出に出るというコースです。これもかなり楽です。もうひとつは龍神までで、美山を通り、吉備インターまわりです。これは道はなかなかいいものの距離的には大変です。体はもうへとへとです。だからこの選択肢はないものとしたほうが良かったのです。

箕峠で瞬間に左にハンドルを切ってしまいました。頭をよぎったのは、龍神のおいしい鮎です。しかし、これを食べると1時間くらい余計に時間がかかってしまいます。

そうだ、美山療養温泉で疲れを癒そうと考え、朝6時半から運転しっぱなしの体に鞭をあてたのでした。

こんな日は何かが起こるのです。椿山ダムの右岸の国道424号線を右折せよと、美山療養温泉の看板が疲れた目にくっきり見えてきました。後1.5キロメートルです。もうすぐです。着きました。シーン。定休日です。

しかし、天はここまでいじめた私に微笑みを与えるのでした。そのダムの中間辺りのトンネルを抜けたところで3匹のサルとであったのです。えっ！こんなところで！と絶句です。ゆっくりと会話しながら山のほうに去っていきました。ドジな私を嘲笑

しているような、同情しているようなそんな話しぶりでした。



かなり頻繁に車が通行する泉南郡岬町の道路。この話の2日後、田畑から帰る私が出会ったタヌキ。人恋しい顔つきで私を見つめていた。2mの接近。逃げなかった。

それから40分のドライブを経て、恒例になった「どんどん広場」への立ち寄りです。やけではありませんが、少しだけ奮発して買い込みました。買っている途中で「柿酢」が置いてありました。実はこの秋3には柿酢のことを書く予定を立てていました。資料も集めていたのですが、知らず知らずのうちに「愚痴」号になってしまったのです。

(川村 甚吉)

■寄贈標本の紹介

以下の方々より標本を寄贈していただきました。お礼申し上げます。

(※2007年9月分まで)

<哺乳類>

藤原早気さんより
アブラコウモリ死体 1点
貝塚市二色 2007年8月2日採集

<鳥類>

- ◆飯田政治さんより
ツグミ 死体1点
田尻町(樫井川河川敷) 2007年2月10日採集
カワラヒワ 死体1点
阪南市(男里川河口) 2007年4月12日採集
スズメ 死体1点
泉佐野市住吉町 2007年6月17日採集
ツバメ 死体1点
泉南市(男里川河口) 2007年6月9日採集
ツバメ 死体1点
泉南市男里 2007年6月26日採集
- ◆川名恵子さんより
カワラヒワ 死体1点
泉佐野市新安松 2007年8月7日採集
- ◆五藤武史さんより
ミソサザイの巣 1点
貝塚市蕎原 2007年7月31日採集
- ◆食野俊夫さんより
センダイムシクイ 死体1点
貝塚市近木 2007年9月2日採集
ヤマシギの羽根 1点
貝塚市二色 2007年10月2日採集

◆白木茂さんより
ムクドリ 死体 1点
岸和田市上松町 2007年9月11日採集

◆有本智さんより
オオルリの巣 1点
和歌山県海南市 2007年9月26日採集

<爬虫類>

◆北川剛丸さんより
イシガメ 生体 1点
三重県(木津川支流) 2007年7月21日採集

<魚類>

◆食野俊男さんより
ウキゴリ 生体 10点
貝塚市畠中 2007年7月9日採集

◆鈴子佐幸さんより
マダイ 生体 1点
和歌山県広川町 2007年7月9日採集
マハタなど 生体 10点
岬町深日地先 2007年8月17日採集

◆寺田拓真・妹尾拓魔さんより
アマゴ 生体 5点
貝塚市蕎原 2007年8月24日採集

◆寺田拓真さんより
ドンコ 生体 1点
貝塚市馬場 2007年8月22日採集
オオクチバス 剥製標本 1点
泉佐野市梨谷池 2007年9月21日採集

<甲殻類>

◆食野俊男さんより
スジエビ 生体 20点
貝塚市畠中 2007年7月9日採集

◆西野璃友さんより
コブヨコバサミ 生体 2点
貝塚市(二色浜) 2007年7月20日採集

◆吉田和也さんより
モクズガニ 生体 1点
貝塚市木積 2007年7月30日採集

◆松谷賢さんより
ケブカガニ 生体 1点
和歌山県日高郡 2007年9月22日採集

◆鈴子佐幸さんより
イシガニ 1点
泉南市(男里川河口) 2007年9月23日採集

<軟体動物>

◆寺田拓真さんより
ネコジタウミウシのなかま 生体 2点
貝塚市(二色浜) 2007年8月11日採集

<クモ>

◆古野一雄さんより
セアカゴケグモ1♀・卵囊 各1点
貝塚市脇浜 2007年8月16日採集

<昆虫>

◆泉佐野市公園緑化協会より
エントツドロバチ 巣 1点
泉佐野市新安松 2007年6月下旬採集

◆山本麻由さんより
ミヤマクワガタ♂ 成虫 1点
貝塚市蕎原 2007年7月30日採集

◆西野璃友さんより
オナガミズアオ♂ 成虫 1点
北海道常呂町 2005年6月24日採集

カブトムシ♀ 成虫 2点
同上 2005年7月29日採集

ハンノヒメコガネ 成虫 1点
ノコギリクワガタ♀ 成虫 1点

同上 2005年7月30日採集
ガムシ 成虫 1点

同上 2005年8月1日採集
ノコギリクワガタ♀ 成虫1点
同上 2005年8月2日採集
ミヤマクワガタ♂ 成虫1点
ミヤマクワガタ♀ 成虫1点
同上 2005年8月6日採集
カブトムシ♂ 成虫1点
同上 2005年8月7日採集
オオスズメバチ 成虫1点
同上 2005年採集
◆加藤みどりさんより
シラミバエ科の一種 成虫1点
和歌山県 2007年7月採集
◆古谷康輔さんより
セグロアシナガバチ 巣1点
貝塚市澤 2007年7月26日採集
◆青柳正人さんより
セスジナガハリバエなど 成虫5点
貝塚市蕎原 2007年7月18日採集
◆五藤武史さんより
ヒメコブオトシブミなど 成虫3点
貝塚市蕎原 2007年7月7日採集
サクラコガネなど 成虫2点
貝塚市蕎原 2007年7月8日採集
アジアイトトンボ♀ 成虫1点
貝塚市馬場 2007年7月11日採集
セマダラコガネ 成虫1点
貝塚市蕎原 2007年7月20日採集
セダカテントウダマシなど 成虫7点
貝塚市蕎原 2007年7月23日採集
オオスジコガネなど 成虫2点
貝塚市蕎原 2007年7月24日採集
ヒグラシ 羽化殻3点
クシコメツキ属の一種など 成虫2点
貝塚市蕎原 2007年7月26日採集

ヨツスジハナカミキリ 成虫1点
貝塚市蕎原 2007年7月27日採集
エゾゼミ♀ 成虫1点
貝塚市蕎原 2007年7月29日採集
エゾゼミ 羽化殻3点
ヒグラシ♂など 成虫4点
貝塚市蕎原 2007年7月30日採集
ヒグラシ♂ 成虫1点
貝塚市蕎原 2007年7月31日
ヨツスジハナカミキリなど 成虫2点
貝塚市蕎原 2007年8月1日採集
ヒグラシ♀ 成虫3点
貝塚市蕎原 2007年8月2日採集
ヒグラシ♀ 成虫1点
貝塚市蕎原 2007年8月5日採集
ニイニイゼミ 羽化殻3点
貝塚市名越 2007年8月15日採集
コマルハナバチ 成虫1点
貝塚市蕎原 2007年8月16日採集
ハグロトンボ 成虫3点
貝塚市木積 2007年8月24日採集
ミンミンゼミ 羽化殻1点
貝塚市蕎原 2007年9月3日採集
◆食野俊男さんより
ヒロヘリアオイラガ 成虫1点
貝塚市近木 2007年8月3日採集
◆高野晴一郎さんより
オオスズメバチ 成虫1点
貝塚市二色 2007年9月29日採集

<昆虫画像>

◆五藤武史さんより
ナニワトンボ♂ 成虫1点
貝塚市千石荘 2007年8月11日撮影

■学芸員実習を終えて

実習が始まる前に下見に行った時に自然遊学館は植物や昆虫、魚類、哺乳類、爬虫類、両生類と様々な生き物がいるのを知っていたので楽しみにしていました。ただ、通勤が2時間半もかかるのでつらくなってくのではないかと不安でした。でも実際、実習に行くと日に日に面白くなってきて、通勤時間が長くてもつらいとか苦痛だと思うことはありませんでした。

自然遊学館では、月に何回か行事が行われていて、今回の実習ではバッタ調べとカニ釣り、河口の生き物探索に参加しました。私自身も楽しませてもらい、行事を楽しむ子供たちの姿を見て喜びも感じました。

また、毎日魚にえさをやったり、カエルのえさにバッタをとったり、自然遊学館周辺の植物をとったり、水槽の掃除をしたり、行事の調査の結果をまとめたりと、生き物の世話から事務的な仕事までやらせてもらい、とてもやりがいのある実習でした。私は今までもし、学芸員として働くなら水族館がいいと思っていましたが、このように様々な生き物に触れることのできる場所で働くのもいいと思うようになりました。

この実習で学んだことは、生き生きとした子供たちとふれあうことの喜びと大学で学芸員になるには大学院まで行かないとなれないと言っておられたことも身に沁みて感じました。日常の調査のためにはもちろんのこと、子供たちに何を質問されても答えられるためにも、子供たちにわかりやすく何かに例え噛み砕いて伝えるためにも、

やはり専門的な幅広い知識が必要だと思いました。

実習はもっと厳しくてしんどいものだと思っていたのですが、すごく楽しく充実感のある実習でした。本当に貴重な体験をさせていただきありがとうございました。

(近畿大学農学部3回生 久保田 梨裕)



9月5日から14日までの9日間の間、貝塚市立自然遊学館の方々には大変お世話になりました。自然遊学館は、植物や、魚、水生生物、昆虫、化石、動物など、とても幅広く扱っていて、いろんなことを知ることができ、そして、たくさんを経験させてもらい、勉強になりました。遊学館で実習できてよかったです。学芸員の方たちはみんな良い人ばかりで楽しかったです。

実習の内容としては、生き物の世話、植物採集や近木川での生き物調査、自然生態園のバッタ調べやカニ釣りのイベント、そして、資料整理などの事務処理があり、学芸員の仕事は調査などの専門的なことばか

りではないんだなあと思いました。私たち実習生は、任せられた仕事をするだけですが、学芸員の方たちは、事務処理をしながら、調査などもしなければならぬので大変だろうなあと思いました。イベントでは、子供たちと一緒にバッタを捕まえたり、カニを釣ったりして楽しかったです。子供たちが楽しんで参加できるこういう行事を企画する博物館が家の近くにあったらいいなあと思いました。そして、自然遊学館は地域の人たちとのつながりを大切にしている博物館だなあというふうに感じました。

この実習を通して、学芸員の方たちがどういうことをしていて、博物館がどういうふうに成り立っているのかなど、少し分かった気がします。今回の学芸員実習はとても良い経験になりました。9日間という短い期間でしたが、ありがとうございました。

(近畿大学農学部 4 回生 西岡 絵理)

二色浜でのヤドカリ調査

二色浜海岸ではこれまでに 6 種類のヤドカリが記録されています。二色浜北端に位置する突堤の石積み護岸ではどんな種類のヤドカリが生息するのか、また、背負って宿にしている貝殻の種類を調べてみました。

方法)

二色浜の突堤の石積み護岸において、3 名が 2007 年 9 月 13 日の干潮時、岩表面に生息するヤドカリをランダムに素手で採集しました。館に持ち帰り、ヤドカリの種類、背負っている貝殻の種類を記録しました。

結果)

記録してまとめた結果を下表に示します。採集したヤドカリは 3 種類であり、ホンヤドカリ 23 個体、ケアシホンヤドカリ 18 個体、ヨモギホンヤドカリ 3 個体の計 44 個体でした。

ホンヤドカリが宿にしていた貝殻は多い順にイボニシ、コシダカガンガラ、アラムシロガイ、ムギガイの 4 種類でした。ケアシホンヤドカリが宿にしていた貝殻はコシダカガンガラ、イボニシの 2 種類でした。ヨモギホンヤドカリが宿にしていた貝殻はイボニシの 1 種類のみでした。

考察)

ケアシホンヤドカリはほとんどがコシダカガンガラを宿にしており、ヨモギホンヤドカリはいずれもイボニシを宿にしていますが、ヤドカリの種類によって好みの貝殻というのがあるのか興味深いです。

(久保田 梨裕、西岡 絵理、山田 浩二)

表. 二色浜北端突堤で採集したヤドカリと宿にしていた貝殻

	宿にしていた貝殻				計
	イボニシ	コシダカガンガラ	アラムシロガイ	ムギガイ	
ホンヤドカリ	9	8	5	1	23
ケアシホンヤドカリ	1	17	0	0	18
ヨモギホンヤドカリ	3	0	0	0	3
					44

■遊学館スタッフ日誌

8月9日 近木川の上流から下流までの4地点で、上之山賢治さん指導のもと、水質、微生物、水生昆虫、水生動物の関係を調べる本年度2回目の調査日でした。上流の水温は低く、木々の葉が暑い陽射しをさえぎり、昼までに順調に2地点の調査を終えました。2地点目の休場橋の調査では、植野敏郎先生も調査方法の指導に駆けつけて下さいました。ところが中流の三ツ松大橋の調査時に、空がクルクル回り出し、吐き気がし、立ってられなくなりました。熱中症の一手手前です。胴長が発汗を抑え、体温が上がりすぎたのだと思います。4地点目の近木川橋に向う途中で、スポーツドリンクとクリームパンで水分と栄養を補給し、なんとか調査を終えることが出来ました。上之山さんと、学芸員実習で参加した深江真理さんは、最後まで集中力が切れませんでした(えらいな〜)。山田学芸員はと言えば、意外にも元気で、近木川橋での調査でお世話になっている二色幼稚園の園長先生に御礼を述べ、館に戻っても片付けや事務仕事に奔走していました(→翌日、鉛色の顔になってダウンしてしまいました)。本当に長い一日でした。(岩)

8月26日 夏休みも大詰めを迎えてくると、自由研究として採集した生きものの名前調べに訪れる親子の姿も多くなります。この日はわざわざ奈良からおいでの小学3年生の女の子、お母さんと一緒に貝標本の詰まった大きな風呂敷2つを抱えて、質問

にみえられました。南紀の海岸8地点で採集した打ち上げ貝が数百個あり、自分で図鑑を見て調べた種名のラベルがつけてありました。このボリュームには圧倒されました。地点間で貝類相を比較するそうです。スゴイ... (山)

9月30日 今年になって自然遊学館周辺で急に増えてきた植物がありますので紹介します。外来種のナガエコミカンソウ(とうだいぐさ科)、アレチニシキソウ(とうだいぐさ科)、クルマバザクロソウ(ざくろそう科)と在来種のニシキソウ(とうだいぐさ科)です。散歩の折にでも探してみてくださいね。(湯)

■おしらせ

スナメリ骨格標本作成中

今年、3月に近木川河口で打ちあがったスナメリ(クジラ)は肉を解体したのち、骨格標本化のため市民の森に埋めていました。そろそろ回収するのに適当な時期がきましたので、9月27日に当館スタッフと大阪市立自然史博物館の樽野学芸員、鈴子さん親子、泉南高校生徒の協力を得て、スコップで掘り起こしました。そして、骨に付いた土を洗い落として乾燥させています。今後、組み立てを行い、来年の3月に当館で開催する特別展「スナメリたちのすむ海・大阪湾」で、この骨格標本がお披露目できるよう準備を進めています。

市民の森・自然生態園「トンボの池」 が10周年を迎えました！

自然生態園「トンボの池」をつくってから10年たちました。10年の節目に記念祭を行いますので、ぜひおこしく下さい。

記念式典の後には、市長さんと一緒に、改修したトンボの小橋を渡りましょう。

日時：11月10日(土) 午前10時～11時半

※小雨決行

場所：市民の森 自然生態園

集合：自然生態園「トンボの池」午前10時

内容：あいさつ：山口 進（自然遊学館わくわくクラブ会長） ほか

祝辞：吉道 勇（貝塚市長）

トンボの小橋渡り初め・ドングリの木（コナラ）幼樹植え込み

トンボの池掲示板お披露目

イノシシ剥製（貝塚猟友会寄贈）お披露目

10年目の記念撮影

自然生態園の案内と名札付け

申込み：10月31日(水)までに、電話で自然遊学館へ

その他：参加者にお餅を2個ずつ用意しています（雨天の場合はありません）

「貝塚の野鳥展」 山手公民館で開催

期間：10月29日～12月2日

夏期特別展として当館で開催した「貝塚の野鳥展」が山手公民館にやって来ます。これまでに貝塚市内で確認された野鳥は178種。自然遊学館での10年間での調査結果とともに、剥製・古巣・卵の標本と生態写真を展示し、その不思議で魅力的な生態にせまります。

自然遊学館だより 2007 秋号 (No. 45)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/index.htm>

発行日 2007.10.15

この小冊子は庁内印刷で作成しています。